四国・水こぼれ話
Water Information Saloon Shikoku
談話室 Vol 134

「水への願いと祈り」

四国地方整備局　河川部長
森山（もりやま）　裕二（ゆうじ）

こんにちは。四国地方整備局河川部長の森山です。

昨年の夏から秋にかけて、記録的な少雨により早明浦ダムの利水容量がゼロになる状態が２０日間も続きました。「渇水」という言葉が今も四国地方にとって克服すべき大きな課題であることを再認識させられました。

２１世紀は、「水の世紀」と言われています。アジアやアフリカなどの発展途上国では、多くの人々が「安全な水」を飲むことができず、飲み水から病気に感染したりして大切な「いのち」を失っています。

安全な水の確保は、わが国でも以前は大変だったようです。四国と同じように渇水で苦しんできた沖縄では、「神」は海よりやって来て豊穣と幸などをもたらすと信じる「ニライ・カナイ」という宗教的世界観があります。沖縄のもっとも重要な祭祀儀礼のひとつに「雨乞い」があり、豊穣は、雨すなわち「水」と深く結びついています。かつて沖縄では、地下水が地表に湧出する泉に樋をかけた井泉（樋川【ヒージャ】）などから飲み水などを得ていました。人々は、樋川の前で安全でおいしい「水」を与えてもらっていることに感謝し、明日も「樋川」が枯れることがないよう願ってきました。

「水場」カトマンズ

四国にも小豆島の西方にある豊島に沖縄の樋川とそっくりなものがあります。それは、弘法大師が掘ったと言い伝えられている「唐櫃の清水（からとのしみず）」と呼ばれる湧水です。

また、私が数年前に勤務していた「世界の屋根ヒマラヤ」の国、ネパールの首都カトマンズでは、今も上水道が十分に整備されておらず、多くの市民は、かつての沖縄の樋川とそっくりな「水場」で飲み水はじめ生活に必要な水を確保しています。「水場」以外にも多くの井戸があって人々は今もそれに依存しています。「水場」と井戸のそばには、必ずと言っていいほど「神」が祭られており、人々は「神」に感謝し、明日も水が湧き続けることを願っています。

昔も、そして今も、世界の多くの人々が、生きるために「水への願いと祈り」を毎日続けていることを忘れないようにしたいと思います。

唐櫃（からと）の清水（しみず）（残したい香川の水環境50選）

桶川（ヒージャ）　金武大川（キンウッカガー）（沖縄）